

授業科目名	クリティカルケア看護演習Ⅱ <i>Seminar in Critical Care Nursing II</i>			担当教員	
開講年次	1年通年	セメスター	1・2	時間数(単位数)	60(2)
必修選択	専攻領域必修	授業形態	演習	使用教室	
授業の目的	クリティカルな状況における個人の選択と意思決定などの倫理的諸問題に対応しうる知識を獲得し、問題解決のための実践力を養う。				
到達目標	1. 倫理的諸問題を解決するための具体的方策、倫理的判断力を獲得できる。 2. 倫理的問題に対する感受性を高めることができる。 3. 倫理調整に必要な指導的役割、コンサルテーション技法、コーディネーション技法を獲得できる。				
授業計画	<p>本科目は、クリティカルな状況において遭遇する様々な倫理的問題とその解決について、理論的・実践的に教授するとともに、具体的な臨床実践事例を用いて検討することにより、高い倫理性を備えた専門職者の育成をめざす。</p> 1回 : クリティカルケアにおける倫理的諸問題に関する現状と看護師の役割 2回 : 自己決定権(尊厳死、リビングウィル、延命治療)の諸相と倫理的問題 3～4回 : 自己決定権:院生によるプレゼンテーション準備 5～6回 : 自己決定権:院生によるプレゼンテーション 7回 : インフォームドコンセントの在り方をめぐる倫理的問題 8～9回 : インフォームドコンセント:院生によるプレゼンテーション準備 10～11回 : インフォームドコンセント:院生によるプレゼンテーション 12回 : 脳死下臓器移植で生じる倫理的問題 13～14回 : 脳死下臓器移植:院生によるプレゼンテーション準備 15～16回 : 脳死下臓器移植:院生によるプレゼンテーション 17回 : 自殺企図をめぐる個人的価値観と専門的価値観 18～19回 : 自殺企図:院生によるプレゼンテーション準備 20～21回 : 自殺企図:院生によるプレゼンテーション 22回 : 全人的痛みと Comfort care 23～24回 : 全人的痛みと Comfort care:院生によるプレゼンテーション準備 25～26回 : 全人的痛みと Comfort care:院生によるプレゼンテーション 27回 : クリティカルケアにおける終末期看護 28～29回 : End of life care:院生によるプレゼンテーション準備 30回 : End of life care:院生によるプレゼンテーション ※各テーマは、院生の知的関心、時事、趨勢を見極め変更することがある				
学習方法	授業は、倫理的諸問題に関する講義と討議で構成されている。討議の参加においては、講義資料を熟読するとともに、テーマに関連する資料を自主的に集め、自己の考えをまとめておく必要がある。				
オフィスアワー					
テキスト	毎回の講義で提示する				
参考文献	国際看護師協会:ICN 看護師の倫理綱領, 2012年版. 東京, 日本看護協会, 2012. http://www.nurse.or.jp/nursing/international/icn/document/ethics/pdf/icncodejapanese.pdf . アンJ. デーヴィス監修:看護倫理 理論・実践・研究. 東京, 日本看護協会, 2002. 日本看護協会:看護者の倫理綱領. 東京, 日本看護協会, 2003. https://www.nurse.or.jp/nursing/practice/rinri/pdf/rinri.pdf . Mayeroff, Milton: On caring.1971, 田村真, 向野宣之訳:ケアの本質-生きることの意味. 東京, ゆみる出版, 1987. Gsupple 編集委員会:改訂2版 事例でまなぶケアの倫理. 吹田, メディカ出版, 2010.				
評価方法	授業への積極的参加度(20%) プレゼンテーション(40%) 倫理的諸問題における看護師の役割についてのレポート(40%)				